

平成 28 年 1 月 28 日
在アンゴラ日本国大使館
医務官 麻生有二

【医療情報】黄熱病の発生

在留邦人の皆様、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。医療情報につきまして以下のとおりお知らせ致します。

国際内科学会に出席した保健大臣によりますと、ルアンダ州では昨年 12 月 30 日の時点で 26 人の黄熱病患者が発生し、うち 8 人が死亡したそうです。正確な診断か疑われますが、3 例は南アフリカに血液サンプルが送られ確定したそうです。感染地はヴィアナです。在南アフリカ日本大使館の医務官が感染症研究所に確認したところ、「**感染はエリトリアおよびナイジェリアからの労働者の間で拡がっているらしい、彼らがワクチン接種を受けていなかった可能性が高い**」ということです。但し、欧州系外国人にも感染者が出ており死亡者がいるとの未確認情報も有り注意が必要です。いずれにせよ、郊外の森林には近づかない、防蚊対策を十分にお取りください。

黄熱病（英 yellow fever、 葡 A febre amarela）

1. ウイルス性出血性感染症、黄熱とは黄疸症状が見られる感染者に由来します。
2. 元々の発生源は森林の野生の蚊（ネッタイシマカ）から猿に感染し、猿から蚊にそして人間に感染が伝播する。
3. 未接種者の 50%が重症になり死亡に至る可能性がある。
4. 世界全体で年間 20 万人が発症し 3 万人が死亡している。
5. 黄熱病の主な感染地帯はアフリカとラテンアメリカ
6. 治療は対症療法のみ根治治療はない。
7. ワクチン接種が有効な予防、1 回接種で効果有り。
8. ワクチン接種後 30 日で 99%の免疫効果が高められる。
9. 接種者の 95%が予防される。

参考：WHO Fast sheet Yellow fever